

昭和六十年十一月二十九日提出  
質問第一三三号

円高下の中小企業対策に関する質問主意書

右の質問主意書を提出する。

昭和六十年十一月二十九日

提出者 城地豊司

衆議院議長 坂田道太殿

## 円高下の中小企業対策に関する質問主意書

政府・日銀は先進主要五カ国蔵相会議（G5）以降、円高誘導政策を積極的に推進してきたが、一時、二百円台を突破するなど、上げ足があまりにも急激であつたため、国内産業は広範囲に重大な影響を受けている。

とりわけ、輸出依存度の高い中小企業において深刻な事態に直面しており、加えて、円高の落ちつき先が見えないため、中小企業経営者及び従業員の不安は計り知れないものがある。輸出比率の高い産業を中心とした中小企業対策は、緊急を要すると考える。

従つて、次の事項について質問する。

- 一 政府は、円レートの適正水準について、一ドル何円程度が妥当と判断しているのか。
- 二 短期間の急激な円高が、中小企業経営にどのような影響を与えているか。その業種別、地域

別の実態を速やかに把握すべきと考えるが、政府の対応はどうか。

三 主として輸出依存度の高い中小企業向けの緊急対策が必要である。政府の方針はどのようなものか。

四 前記三の事項との関連において、中小企業対策等を柱とする昭和六十年度補正予算(案)の編成を検討すべきと思うが、政府はどのように考えるか。

右質問する。